

海老名市立有馬小学校 学校運営協議会 議事録
(令和7年度 第1回)

- 1 日時 令和7年6月12日(木) 9:45~12:00
- 2 場所 海老名市立有馬小学校 校長室
- 3 出席委員 小松 明 委員長、二見 隆江 委員、村山 紀行 委員、
奥谷 婦貴子 委員、小林 里実 委員、北村 真理 委員
住田 晶子 校長、内山 大輔 教頭、片岡 香子 総括教諭

4 会議の内容

(1) 学校長挨拶

住田校長：今年は、1年生41名の入学があり、全校児童277名でスタートした。学校運営協議会は、新たに北村委員に加わっていただいた。また、人事異動により、内山教頭、片岡総括教諭も加わっている。1年間、よろしくお願いします。

(2) 委嘱状交付

4月より新規委員の北村委員、内山教頭、片岡総括教諭へ委嘱状交付。

(3) 授業参観

(4) 自己紹介

(5) 会長、副会長の選出

会長に、小松委員を選出。

副会長に、山口委員を選出。(山口委員は、本日欠席)

(6) 協議

① 令和7年度の学校運営協議会について

住田校長：本校の児童は、学年を超えた関わりが多く、誰とでも仲良くなれる児童が多い。また、地域とのつながりが強く、学校に協力してくださる方がたくさんいらっしゃるのが本校の特長と考えている。

地域によっては児童が少ない場所もあるので、登下校時に事故や事件に遭わないかが心配。

学校教育目標は、「夢をもって未来を切り拓く調和のとれた子どもを育てる」とし、インクルーシブ教育の視点を重点に置きながら、学校運営を

していきたいと考えている。

また、地域のつながりを大切にして、地域の方にもっと学校に足を運んでいただき、活躍していただけるようにしていきたい。

二見委員：登下校の安全面は、やはり心配。

住田校長：地域の青パトも見回ってくださっている。

二見委員：学校応援団のイベントのときも、青パトに依頼して見回ってもらっている。夜には、警察もパトロールしてくださっているのを目にする。

住田校長：青健連も見回りをしてくださっているところもある。

小松委員長：有馬地区は、自治会ごとに青健連がある。以前は、プランターに花を植えたり、有馬中学校区ででんじろう先生を講師にお招きしたりしたこともあった。

② 令和7年度学校運営、学校行事等について

住田校長：今年度の学級としては、5年生が単級で、支援級がひとクラス増となっている。市内で一番規模の小さい学校。

子どもたちには、いきいきと仲間と一緒に育ってほしいと願っている。

また、すべての教職員がすべての児童の担任という意識を持って指導にあたるようにしている。

支援級についても、教職員一人一人にひまわりタイムという時間を割り当て、支援級の児童の支援を行っている。

防災・防犯については、児童の命を守れるよう訓練を重ねていくようにしている。先日も、海老名警察の方にご協力いただいて、不審者防犯訓練を実施した。

P T Aについては、今年からボランティアを中心に活動している。おかげさまで、協力してくださる方が多く、先日もアリマンピックや田植えなどでお力をいただいた。

また、学校応援団という力強いサポーターもいらっしゃるので、魅力のある学校づくりを行っていきたい。

学校の様子については、学校ホームページやインスタグラムで、こまめに発信していく予定。

学習面では、個別最適な学びを具現化するために、自由進度学習にも取り組んでいきたい。自由進度学習は、生涯学習にもつながると考えている。

教職員の体制としても、交換授業を行ったり専科が授業を行ったりと担任だけではなく、多くの目で児童を支援できるようにしている。担任としては自分のクラスの授業が少なくなってしまう部分もあるので、実際やってみてどのように感じているのか、教職員にもアンケートを取りたいと思っている。

- 片岡総括教諭：今年はずべてのクラスの書写を担当している。いろいろな児童と関わりながら、みんなで支援していきたい。
- 住田校長：専科になると、専門的な授業づくりができるという利点がある。
- 内山教頭：先日の不審者防犯訓練では、警察の方に児童の対応がよかったと評価いただいた。
- 二見委員：中学校でも警察にご協力いただいていると聞いている。
いじめについては、いじめをなしにするのではなく、見過ごさずに、チームで取り組むことが大切。
支援級の児童については、積み重ねの教育が大切なので、じっくりと一人一人にあった支援をお願いしたい。
- 小林委員：教科担任制なので、担任の先生と会う時間が少なくなってしまったという声も聞こえる。ただ、児童のなかでは、先生が変わるごとに、気持ちも切り替えようとしているようだ。
- 住田校長：中学生になる準備という意味合いもあるが、教職員にもさびしさはあるようだ。
- 小松委員：子ども目線で考えると、色々な先生がいると好きな先生に巡り会える機会が多くなる。色々な先生に教わることは、よいことだと思う。
- 住田校長：チーム担任制を取る学校も全国では増えてきている。オール有馬で児童の指導・支援にあたっていきたい。
- 片岡総括教諭：今年度の教育課程については、アリマンピックまで無事終わることができている。アリマンピックは、異学年でグループになり、6年生がリーダーシップを発揮して、低学年の面倒をよく見ていた。また、地域の方に協力いただいて、野菜を育てている学年があり、大変よい学習ができている。
- 二見委員：委員会活動の数はいくつあるか。
- 片岡総括教諭：今年度は、7つの委員会が活動している。
- 小林委員：以前と比べると、クラブ活動が少ない印象がある。
- 片岡総括教諭：クラブ活動については、どこの学校でも減ってきている。
- 片岡総括教諭：学習面では、「ありまなビジョン」と称し、教科横断的な授業を軸に研究を進めている。本校の児童は、体験しながら学ぶことが多く、昨年度も体験をとおして児童が成長していく姿を間近で見ることができた。教科だけでは、学べないことを学べるようにしていきたい。
また、社会に開かれた教育課程としては、昨年度まで夏休みに行っていたありまっ子スクールを平日に開催している。地域の方に講師をお願いしており、児童の参加率も高い。
- 住田校長：6月19日（木）には、授業の一貫として、有馬中学校の合唱部と吹奏楽部の演奏を聴かせていただくことになっている。
- 二見委員：学校応援団としては、中学校の音楽を子どもたちにも先生たちにも体感

してほしいと思っている。暑さのために夏休みに開催できなくなったが、この取組はぜひ残していきたい。委員の方もぜひお越してください。

片岡総括教諭：P T A活動については、ボランティアを募って活動するかたちにした。ご協力いただいた方には、運動会や学習発表会に優先席を設けるなど、特典もつけている。

住田校長：P T Aに加入していただいていない方も、加入したいと思ってもらえるようなP T Aにしていきたい。また、ぷちいちごというボランティアは、対象者を地域に広げて募集している。子どもたちの支援だけでなく、地域のサークル的な活動になればと思っている。

(7) その他

次回の、学校運営協議会は、令和7年11月18日（火）9:45から開催予定。